

## 目の上が赤くなる!?

ライチョウは怒ったり興奮したりすると目の上が赤くなります。この部分は肉冠と呼ばれ♂では大きく目立ちます。



寒い地域で暮らすライチョウにはその対策として色々なとくちょうがあります。鼻の孔は凍りつかないように羽毛でおおわれクチバシは雪の下のたべものを掘り出せるようカギ型です。また羽は熱を逃がさないよう二重構造になっています。

## 足がもふもふ

ライチョウは足先まで羽毛が生えています。これはキジ科の中でも珍しいです。ライチョウの学名のLagopusはウサギの足という意味がありライチョウの足がもふもふしていることから名づけられました。

## ライチョウの中では最大の大きさ!

ライチョウは世界で23亜種がいるといわれています。その中でも最も北に住むスバルバルライチョウは世界最大の大きさです。ちなみに最も南に住むニホンライチョウは世界最小の大きさです。

# 白い羽と茶色い羽

スバルバルライチョウは夏は山肌に似せた褐色、冬は雪と同じ純白色に変わります。これは天敵から見つからないよう季節に応じて周りの環境に合わせて衣替えをしているからです。

# スバルバルライチョウ

## スバルバルライチョウは最大級

世界には23~30の亜種のライチョウが分布しています。

ノルウェーに生息するスバルバルライチョウはライチョウの中で最北端に住んでおり、もっとも体が大きいです。

最も北に住み最大

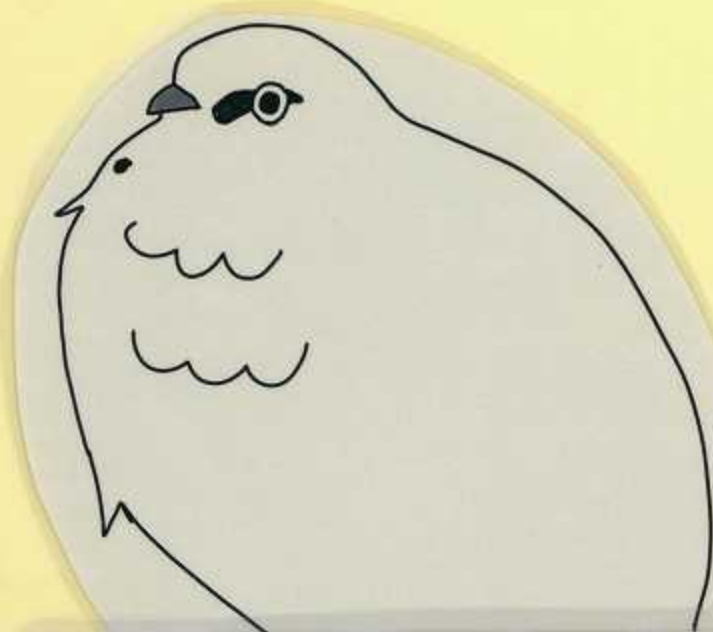
最も南に住み最小



スバルバル  
ライチョウ



ニホンライチョウ



夏羽



冬羽

## ライチョウは無口なウサギ足?

## 日本では神の使い、一方別の地域では...

ライチョウの学名「Lagopus (ラゴプス) は lagou (ウサギ) + pous (足) を意味しております。これはキジ科では珍しく羽毛でおおわれた足をもっていることから来ました。また「muta」は静かな、無口なという意味です。

ライチョウは天敵をさけるため、朝夕の雷の鳴るときに活発に活動し、それが名前の由来となっていると言われております。日本では江戸時代より雷よけの信仰があり神の使いとして扱われたそうです。一方、北米の一部地域では狩猟鳥であり、スノーチキンと呼ばれているそうです。